

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【大久保小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	国語においては、「言葉の特徴や使い方に関する事項」について依然課題が見られる。しかし、一定の成果は見られたため、引き続き全学年で、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、重点的に指導していく。 算数においては、基礎的な知識・技能の定着と活用に関する課題が見られる。当該学年での定着を図るために、ドリルパーク等を活用し、定期的に復習していく。
思考・判断・表現	国語においては、話の中心を捉えることや、目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けことが本校の課題である。授業で取り扱う際、相手意識、目的意識を明確にして資料を選ぶことを指導する。また、適切なモデルの提示、他者参照しやすい工夫を取り入れた授業展開を行っていく。 算数においては、複数の情報から必要な情報を取捨選択し、解答することに課題がある。基礎的な適用問題の他に、おかわりチャレンジ等を活用し、類似の問題にも取り組ませていく。

今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」、算数「図形」変化と関係において課題が見られる。 <指導上の課題> 学習内容の習熟に個人差が見られる。個に応じた反復練習の時間を設けることが難しい。	⇒「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、指導していく。【該当単元】 授業時間内に確実に適用問題を実施していく。その際、ドリルパーク等の活用を含め、個人の実態に応じた問題に取り組めるようにする。【毎時間】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」、算数「変化と関係」において課題が見られる。 <指導上の課題> クラウドを活用した学習展開が十分にできていない。	⇒児童が仲間と協力して考えたり、ICTを活用しているいろいろな考え方で学んだりする場面を積極的に取り入れた授業を展開する。【毎時間】 授業に主体的に臨めるように、根拠を明らかにして情報を読み取る活動を重視し、授業を展開する。【毎時間】

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能	A	「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、指導することができた。教材文を読む際、主語と述語との関係に気付かせながら指導した。また、主語、述語の関係について、おかわりチャレンジを活用して復習した。 授業時間内に確実に適用問題を実施することができた。教科書の適用問題、計算ドリル、プリントやドリルパークを、児童の実態に合わせて活用した。
思考・判断・表現	B	児童が仲間と協力して考えたり、ICTを活用しているいろいろな考え方で学んだりする場面を積極的に取り入れることができた。考えを共有したり、他者参照したりする活動を行った。また、共同作業でパンフレット作り、詩やモデル文の表現の工夫探しなども行った。 授業に主体的に臨めるように、根拠を明らかにして情報を読み取る活動を重視し、授業を展開した。ICTを活用し、解き方を話し合ったり、他者参照したりできるようにした。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率は高かった。既習の漢字を正しく使う力が身に付いている。ただし、本校の課題である主語と述語の関係に関する出題がなかったため、正答率が高かったとも考えられる。 算数「図形」において、基本的な図形の意味や性質について問う問題の正答率は高かった。しかし、多角形を基本図形に分割し、必要な長さを測り、計算する問題の正答率は低かった。多角形を面積の求め方が分かる図形に分割し、公式を用いることに課題がある。「変化と関係」の知識・技能に対応した問題は出題されていない。
思考・判断・表現	国語「話すこと・聞くこと」「読むこと」における正答率が低かった。自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉えることや、目的に応じて文章と図表を結び付けて必要な情報を見付けことが本校の課題といえる。 算数「変化と関係」における正答率が昨年度に引き続き低かった。複数の情報から必要な情報を取捨選択し、式に表すことに課題がある。また、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉え、言葉や図と式を関連付けて説明することにも課題が見られた。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語の「漢字を文中で正しく使う問題」、「文中の主語と述語の関係を理解する問題」において課題が見られた。当該学年以前に習った漢字が定着していない、主語と述語の関係への理解が定着していないと考えられる。昨年度からの課題であったが、問題や学年によっては、市平均を上回る設問も見られたため、改善の傾向にある。 算数の「図形」において、引き続き課題があるととらえる。円の定義の定着、展開図から出来る立体を想像する問題の正答率が低かった。また、「小数の数の構成の理解、計算の問題」にも課題が見られた。小数を計算する際の、繰り上がりや繰り下りの理解が定着していないと考えられる。
思考・判断・表現	国語の「自分の考えが伝わるように、他の人の考えと明確に分けて表現したり、図表やグラフを適切に用いたりする問題」、「話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる問題」に課題が見られた。話の中心をとらえる力が不足していると考えられる。また、複数の資料から、必要なものを選んで解答する問題の正答率が低かった。資料を読み取る力が不足していると考えられる。 算数の「グラフを読み取る問題」、「基準量、比較量、割合の関係をとらえる問題」に課題が見られた。グラフから必要な情報を読み取る力、図から適切な情報を数理的に処理する力の定着に課題があると考えられる。また、示された情報から立式に必要な情報だけを取り出し、解答する問題に課題が見られた。立式に求められる条件付けを把握する力が不足していると考えられる。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	国語では、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、指導している。今後も継続的に指導していく。 算数では、適用問題を実施している。授業の中で、ドリルパークまで活用できることは少ない。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教員が、受け持ちの教科において、児童が仲間と協力して考えたり、ICTを活用しているいろいろな考え方で学んだりする場面を積極的に取り入れた授業を研究し、実践している。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)